

校長あいさつ

平成29年4月1日に着任した、第22代校長の夏井博実(なついひろみ)でございます。

本校は、昭和37年(1962年)地域社会、産業界の強い要請により、由利本荘地域唯一の工業高校として開学し、平成29年(2017年)で創立55年目を迎える学校です。本校の校章は、原子の軌道を3つ交差させ安定した形とし、学校の発展を祈念したものとなっています。

現在、機械科(M)、電気科(E)、環境システム科(S)、建築科(A)の4学科が『自律・創造・誠実』の校訓の下、建学の精神である『全人の夢を育む』という高慢な理想に向け将来の自己実現を目指し学業、部活動、生徒会活動等教職員とともに充実した学校生活を送っています。

本校の特色は、工業高校では北海道・東北初の「航空機コース」を設けていることです。「航空機コース」は、次期学習指導要領改定を踏まえた、新たな『カリキュラム・マネジメント』の側面を取り入れ3つの基本方針を掲げて導入しました。

①航空機産業を含め、新しい産業への人材育成ということを強く意識し、『既存学科の枠を超えて全ての生徒が、選択できるシステム』とする。導入、指導実践には『全職員が係わり、情報の共有を行い』、検証と改善をしながらカリキュラムを推進する。(創り上げる)

※1年次:全生徒が航空機概論の1科目1単位を受講

②次世代の産業へつながり、『地域産業を担う即戦力となる専門性を高めた人材育成』のための高度な知識、技術・技能の習得を目指す学習と実習形態とする。

※全生徒が選択可能なコース

2年次:航空機コース ⇒ 航空機生産システムⅠの1科目2単位を選択

3年次:航空機コース ⇒ 航空機生産システムⅡ、先端加工技術の2科目4単位を選択

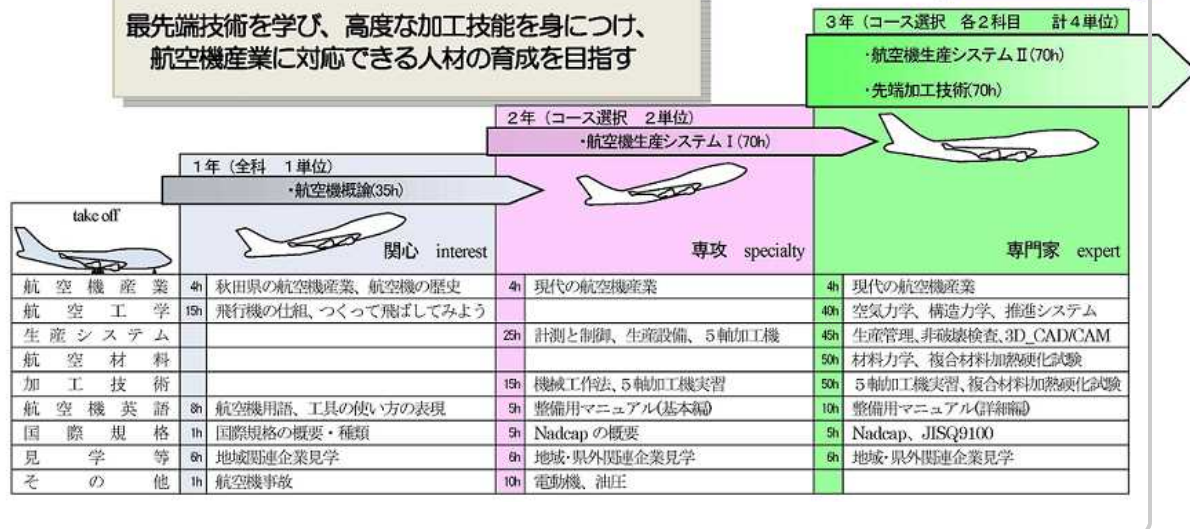
③社会に開かれた教育課程の観点から、航空機コースの科目指導においては、特別な専門領域であることを踏まえ、『積極的に学校外の人的・物的資源を効果的に活用』する。



校長 夏井博実

誰かがつくっている。その、誰かになるっ！

最先端技術を学び、高度な加工技能を身につけ、航空機産業に対応できる人材の育成を目指す



「航空機コース」では、航空機産業と限定的に捉えるのではなく、輸送機全般の産業等(航空機、新幹線、自動車等を含む)として捉え、2つの柱を軸とした人材育成を行います。

①3DCAD/CAMから5軸マシニングを使った一連の加工作業を行える『高度加工技術の習得者の育成』

②軽くて丈夫な新複合素材『炭素繊維強化プラスチック』(CFRP)の複合材料加熱硬化試験等『先端の新複合素材(CFRP)と鋼、アルミニウム合金との特性比較やCFRPの加工等を行う実習』を行い、新産業や、高度先端加工技術に対応できる人材を育成してまいります。

また、平成30年4月に『航空機械工学科』がスタートする岐阜県立岐阜工業高等学校と関連実習での意見交換や生徒交流を通じ連携し、情報共有を推進してまいります。

更に、平成29年度の入学生が2年次生となる平成30年度の修学旅行では、日本の航空機産業の中心となっている企業等の視察や見学を企画・計画しております。

7月15日に生徒の興味や関心・意欲を高めるため、本校エントランスホールに飛行機(ウルトラライトプレーン)とハンググライダーを展示しました。(市内在住者より寄贈いただきました)是非、小中学生や地域の方々にもご覧になっていただきたいと思っております。飛行機にも乗れますし、写真撮影も可能です。建物の外からもガラス越しに見ることができます。近くに来られた際に足を運んでいただければ、とても嬉しいです。



ものづくりに携わる人々で、精度の高い技術・技能の習得と先端の新複合材料の特性を熟知した人が、次世代のものづくりのトップリーダーになりうると考えます。このトップリーダーを育成することを本校生徒の目標として掲げ、『由エスタンダード』から『由エブランド』へレベルアップする生徒に期待をして、これからも力強く由利工業ならではのものづくり教育を推進してまいります。

どうぞ、これからの由利工業高等学校にご期待ください。